

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272200799		
法人名	有限会社 グループホーム さんぽみち		
事業所名	グループホーム さんぽみち 柏		
所在地	千葉県柏市布施新町3-28-20		
自己評価作成日	平成22年2月28日	評価結果市町村受理日	平成22年6月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成22年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成12年に柏第1号のグループホームとして開設以来、家庭的な雰囲気を大切に、安心して暮らせる安定した生活の維持を送れるよう努力しています。また、地域との関わりある生活を送るため、町内会への参加や地域ボランティアの方々の定期的な支援を頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームさんぽみち」は、一般住宅を改装した施設となっており、入居者にとって馴染みある家庭的な造りとなっている。施設方針として、一般家庭の取り組みを基盤としており、家庭的な雰囲気の中で、穏やかに生活してもらえるよう様々な工夫を行っている。日常的に散歩等の外出を行い、外の空気を楽しめるよう配慮している。また、手作り料理の提供や毎日の布団干し等が行われており、入居者が居心地良く生活できるような取り組みがなされている。職員の意見を反映する組織体制が確立されており、会議等にて職員が積極的に意見・情報交換を行い、入居者の情報共有・現状に即したケアの実践に意欲的に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念が掲示されていると共に、日常会話の中やミーティング時等に、理念の確認及び共有化を図っている。理念を意識した支援に努めている。	「安心して暮らせる生活の維持・残存能力を引き出す環境作り・尊厳ある生活」を主眼とした施設独自の理念を掲げている。事業所内に理念・運営方針を掲示していると共に、会議等にて理念の確認を行っており、理念に基づくサービスの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、町会の行事に参加している。回覧板を回す時や散歩時等、挨拶し、声を掛け合う。	住宅街の中に施設があり、地域住民との挨拶やおすそ分け等、日常的に交流が行われている。盆踊り等の地域行事に積極的に参加していると共に、地域にて行われているサロン「ふれあい喫茶」に参加しており、地域の方々との交流を図っている。また、ボランティアの受け入れ・教員の職場体験実習の受け入れ等、地域貢献にも努めている。民生委員や地域住民である職員の紹介・相談等を通じて地域との交流深められるよう情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア活動に参加し、認知症に関する知識をアドバイスしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行い、施設の活動報告や現況報告等を行い、地域理解の促進を図っている。意見交換を行い、行事計画の立案や施設の運営向上に向けた取り組みを行っている。	地域包括支援センター職員・民生委員・町内会長・施設職員・家族等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告を行い、施設の理解促進に努めると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。また、運営推進会議を有効活用し、地域や家族からの具体的な意見・要望等の確認に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員と直接会ってのアドバイスを受けるようにしている。	市に対しては、日常の業務における相談や報告等を随時行っており、密に連携を図っている。また、柏市グループホーム連絡会に加入しており、連絡会を通じて市と意見・情報交換を行い、市と協働でサービスの質の向上に取り組む体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけないケアを目指しているが、建物の構造上目が届きにくい死角になっている為、利用者の安全確保の為に施錠している。ミーティング等で身体拘束についての理解を深めるための話し合いを行っている。	身体拘束排除における施設の方針を掲げると共に、マニュアルの整備や研修の実施を行っており、身体拘束排除における意義を職員全員が理解している。施設周辺は交通量が多い為、安全確保の為、玄関の施錠を行っているが、入居者の希望に応じて開錠し、出来る限り入居者の自由な生活を支援できるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、介護に目配り・気配りし、虐待にならない介護をする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者さんに成年後見制度を使われている方がいるので、話を聞いたり、不審な事を尋ねたりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等を使用し、実施しています。改定のある時は家族に連絡を取り、了解得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時や電話の際、伺うと共に相談・苦情窓口を設置し、対応すると共に、運営者・管理者・職員が御家族と良好な関係を築き、意見を言いやすい関係作りに努めています。	運営推進会議・面会時・電話連絡時に家族からの意見・要望等を確認している。家族に対して報告を行う際には、介護記録等を見せながら詳細に説明し、より具体的な意見・要望を確認できるよう工夫している。挙げた意見・要望等においては、会議にて話し合い、適切な対応ができるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際や常日頃の会話を多くし、いつでも意見できるように心がけています。	毎月、職員会議を開催しており、職員からの意見・提案等を確認している。会議の出席率は高く、密な意見・情報交換が行われている。スタッフの意見や企画を運営に反映させており、やりがいのある職場環境作りに努めている。また、管理者が個別に職員と話しをする機会を設けており、職員の意見や思い等の把握に努め、職員の労働意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与関係等、一部配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個人ノートの記載により把握し、ファックスや言語にて職員を指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会会合活動に参加。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者との会話が一番大切だと思うので、コミュニケーションをまめにするよう努めている。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族と細かな所まで十分時間をかけて話し合うよう努めている。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人の状態を細かく観察し、御本人・御家族とよく話し合いを行う。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	無理強いせず、各自に合った事をスタッフと一緒にやる。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外食・公園への散策・コンサートと一緒に参加する等、協力して頂いている。来訪時、細かな面での話し合いを行い、希望や要望を伺う。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人の訪問はごくまれだが、来訪した際には、またの来訪をお待ちしているとの旨を伝えている。訪問の際には御家族に了解を得た上で。	馴染みの人の面会や手紙のやりとり等を通じて、馴染みの人との関係の継続を支援している。施設周辺の商店や公園が馴染みの場所となっており、散歩の際に立ち寄る等の支援を行っている。また、家族との外泊・外出等は自由となっており、家族との関係継続にも配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の行動を細かに観察し、席替えやレクリエーションに活かしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来訪の際、気持ち良く歓迎する。困った事があれば相談に乗るよう努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴所を御家族に作成して頂くと共に、詳しい聞き取りをし、御本人及び御家族の意向の把握に努めている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認し、記録している。また、必要に応じて医師の意見書や他サービス事業所からの情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は日々のコミュニケーションの中で意向を確認し、会議や申し送りを活用して職員全員が情報を共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族・御本人に生活歴の情報を詳しく頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の個人記録・排便表を作成、生活歴・御家族からの情報をもとに、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族からの希望・意見の聞き取り、職員会議での意見を取り入れ、御本人に最大の介護ができるような介護計画を作成している。また、心身の状況変化等により、随時計画の見直しを行う。	本人・家族の意向を確認した上で、会議にて意見・情報交換を行い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価・目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを行っている。家族とは、随時、意見・情報交換を行っており、意向に沿った介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとにミーティングで利用者毎の目標を定め、介護支援にあたっている。記録から問題点、気付かなかった事等がわかり、よりよい支援ができるよう話せる。		
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族が通院の付き添いできない場合等、スタッフが通院の付き添いをする等、要望に応じて支援している。		
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方や、民生委員の方々からの紹介で手品・楽器の演奏・傾聴ボランティアの方々に来訪して支援していただいています。		
30	(11)	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院を中心として、受診支援や定期的な往診、24時間対応の支援がなされている。急変により通院・往診があればその都度御家族に電話連絡している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて職員が通院の付き添いを支援している。また、内科往診や訪問歯科等が実施されており、入居者のニーズに応じた適切な受診支援が行われている。協力病院を設置しており、24時間連絡が可能な体制が敷かれ、緊急時・終末期等に対する連携が取れるよう協力体制を構築している。	
31		○ 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護をしていて、「あれ？」と思ったことや、どうしたら良いのか？等、看護師から見た介護に助言をいただくようにしている。		
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	さんばみちの方針として、入院した時は全面的に御家族に移行し、相談を受けた時のみ協力する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族に来所時、必要に応じて話し合っている。スタッフ共有して話している。	重度化・終末期においては、本人・家族の希望を尊重し、医療機関等と検討しながら出来る限り意向に沿った支援が行えるよう協力体制を整えている。入居者のニーズに応じて、医療機関や他サービスへの切り替えが必要になった場合には、連携が円滑にできるよう体制を整えている。	入居者の重度化に備え、施設では浴室や共有スペースの改装を計画している。計画を早期実現する事により、入居者の身体状況に合わせた柔軟な支援の実行が可能となるよう期待します。また、終末期における施設方針の明文化により、重度化・終末期における施設対応をより詳細に家族に説明できるよう書類関係の見直し・検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練はしていないが、緊急時の対応などマニュアルは、職員承知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム施設合同の消防訓練研修会に参加し、それを参考に避難訓練を実施。災害用品の準備あり。日常の会話の中で、利用者、職員共に常に意識付けしている。	施設各所に消火器・避難経路図を設置していると共に、非常災害時・緊急時等の対応マニュアルや連絡表を整備している。消防署の協力のもと、年1回の消防避難訓練の実施と研修の参加を行っており、職員は非常災害時・緊急時の対応方法を身に付けている。	施設には、3か所の避難経路があるが、避難経路上の荷物等を整理する事により、避難が円滑にできるよう再度確認・見直しをして頂く事を望みます。また、消防避難訓練では、夜間等、様々な想定で訓練を行い、多様なケースに対する避難方法を身に付けて頂く事を期待します。
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーおよび、プライドに配慮した言葉かけに細心の注意を払う。	プライバシー保護に関するマニュアルの整備・研修の実施を行っている。接遇においては、その人に合った言葉使いを用い、入居者らしい生活の支援を心掛けている。また、トイレや浴室に目隠しカーテン・使用中がわかるプレート等を設置しており、プライバシーを損ねないよう工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の話を良く聞き、自己決定できるようなアドバイスを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援してい る	出来る限り、意に沿う様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	一人一人の利用者に似合った衣類など をスタッフと一緒に選んでいる(利用者 の持ち物の中から) 希望があれば、美容院に同行する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせずに楽しんで出来る事を、 利用者と職員が行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付け まで協働で行っている。栄養士の指導のもと、職員が栄 養バランスや入居者の希望・嗜好を取り入れた献立を作 成している。食事時には職員と入居者が共にテーブルを 囲み、会話をしながら楽しい食卓作りに努めている。ま た、手作りおやつの実施や季節に応じた行事食の提供 等、様々な食の楽しさを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通 じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、 習慣に応じた支援をしている	個人記録に摂取の状況などを記入して いる。 水分量についても毎回スタッフが確認し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じ た口腔ケアをしている	朝晩の歯磨き、本人が磨いた後、スタッ フが磨き直しを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツなどの枚数チェック表があり、スタッフ全員が把握しており、また日中、夜間共に、個人に合わせたトイレ誘導を行っている。	排泄チェックリストを活用しながら、ここの排泄パターンを把握しており、声掛け・トイレ誘導にて排泄の自立に向けた支援を行っている。また、夜間においては、定期的にトイレ誘導を行い、適切な排泄支援に努めている。現在、入居者の身体状況を考慮し、トイレ等の環境整備を進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作り、排便のサイクルの把握に努めている。日々の生活の中でも個々に合わせ、体操・歩行などを行っている。 水分量・メニューなどにも気を遣っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、スタッフの細かい声掛けにより、拒否者はいない。	毎日清拭を実施すると共に、入浴を週2回実施しており、必要に応じて足浴・シャワー浴等にて、入居者の清潔保持を行っている。浴室には、転倒防止マットを設置し、入居者の安全確保に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作成し、服薬の確認を行っている。錠剤が飲み込みにくい人には、つぶしたりして内服しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理強いせず、洗濯物たたみ、掃除、調理の手伝いなど各自にあったことを行っている。 たばこを吸っている人(スタッフ見守り)、おやつでは希望の飲み物の用意		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入浴日以外は、天気の良い日は散歩に出掛ける。季節に、桜・コスモス等の花見に出かける。希望によっては家族と外出する。	入居者の希望や天候に応じて、日頃から散歩や買い物等の外出支援を行っている。また、定期的に、花見・盆踊り大会等に参加しており、戸外での楽しみを支援している。柏市グループホーム連絡にて、コンサート等の催しが開催されており、外部の人達との交流も行われている。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、所持させていない。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたいという要望が無いので家族からの電話をうけるのみ。 年賀状。手紙の返事(住所はスタッフが記入し投函する)		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光は、カーテンにて調節している。テーブルに季節の花を飾る。壁には行事の写真や利用者の作品、俳句、描画などが飾ってある。	施設は、一般住宅を改修しており、入居者にとって馴染みある家庭的な造りとなっている。リビングには、ソファやテーブルが設置され、入居者が思い思いにくつろぐ事が可能となっている。また、共有スペースには、行事等の写真が掲示され、入居者と職員が思い出を共有できるよう工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	床に敷物を敷き、足伸ばしをする(座位の工夫)		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に会ったカーテンの色合いのものを使用。昔の思い出の写真などを飾っている。	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。また、布団や絨毯を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。天気の良い日は必ず布団を干しており、快適な生活が送れるよう支援している。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室の表札、品物を色別にして区別し、選びやすくしている。 場所の表示を分かりやすく示している。		